

越後 オツルミズ沢

栗原

【日時】2008年9月13日～15日

【メンバー】栗原 大田原

前夜、急に天気予報が悪化し、棚橋Pの北沢は転進、オツルミズも中止にするかどうか迷う。が、大田原さんの強い希望で、とりあえず入渓点まで行ってみることにした。五十沢川に入る矢野パーティに六日町で下ろしてもらい六日町からタクシーに乗ったものの、タクシーの不案内もあり大幅に時間をロス、森林公園キャンプ場に着いたのは2時を回っていた。2時間ほど仮眠して、朝を迎える。

9/13 4時半起床。緊張感から眠さも感じず、まだ夜が明けぬ中、黙々と準備する。準備はしながらも、まだ入渓を迷っていた。なんせオツルミズである。下手な場所で雷雨に捕まったりしたら、それこそ大変だ。不安が募る中、携帯で天気予報を確かめると、なんと予報が好転していた。今日1日なんとか雨をしのげれば、夕方には止み、明日は曇り時々晴れになっている！これで入渓を決めた。

どの記録でも「滑りやすい」と書かれた出合の滝では、栗原が案の定滑ってしまった。幸い怪我もなく、遡行を開始する。次の小滝を越え、どの記録でも「巻き」になっている3-4mの滝は、大田原さんが「行けそうです」と泳ぎとツッパリで難なく突破、これには正直驚いた。これで、「オツルミズはもらったぜ！」すぐ、カグラ滝が現れる。ここは大田原さんが1Pリードして難なく突破。その上、4つほど小滝を越すと、巨大スノーブリッジ (SB) が現れる。右からくぐると、その先のトイ状にも不安定なSB。中は行けないため、トイ状の左のリッジを、巨大SBを左手に見ながら越える。



少し行くとニセサナギ、途中から右のブッシュに入り、サナギ滝の下へ。ここで8:30、至極順調だ。サナギ滝はセオリー通りに取り付き、2時間で越えた。核心部は大田原さんがリード、凹角のクラックをこれも難なく越える。その成長ぶりに再び驚く。その後ももっぱら大田原さんがトップに立ち、小



滝を泳いで越えたり、狭いゴルジュを草付から巻いたりする。大滝下には予定よりだいぶ早く12:10に着いた。ここはツルベ4Pで2時間弱で越える。14:00大滝上、先ほどまでパラっていた小雨も、どうやら止んだようだ。早速天場を物色、左岸の岩棚に決めた。少し斜度があったが、薪は豊富で、沈む夕日を眺めながら焚き火が出来た。夜、雨が少しぱらついたものの、すぐに止み、明け方には星空が広がっていた。

9/14 3つの滝は越えたが、まだ核心は越えていないため、6時に出発する。すぐに右岸を高巻きになるが、なるべく大高巻きはせず、ブッシュと草付のギリギリのラインを選んで越えていく。その先も1ヶ所高巻きし、下りると、ナメ小滝になる。だが、まだ核心は越えておらず、その後には悪いSBが待っていた。1ヶ所目は上に行くが、2ヶ所目、上を行くと先が切れ落ち、その先には登れないであろう滝が控えていた。右岸なら大高巻き、左岸の草付に乗りたいたが、雪溪の端が切れ落ちていて、



左岸に移るには跳ぶしかない。一番狭そうな箇所を見つけ、およそ1mを空身でジャンプして左岸に飛び移った。そのまま草付を上がり、ルンゼを越え、藪に入って滝を越える。ここからは小滝連続になるが、なかには厳しいへつりの小滝もあり、なかなか癒し系にならない。やっと源頭の雰囲気が出てきたと思いきや、再びSB。下を駆け足でくぐる。それが最後の核心で、ようやく癒し系のナメ滝になってきた。両岸がひらけ、ひたひた歩いていくと、小屋の水場に出た。10:15駒ノ小屋到着。山頂を往復し、大量にビールを担ぎ上げてきてくれた飯田さん親子と、昼間っからのんびりと打ち上げ。その夜は駒ノ小屋に泊まってオツルミズの余韻を楽しみながら、翌日のんびりと枝折峠に下山した。

【グレード】4級上

【行程】9/13 森林公園キャンプ場(5:20)～オツルミズ沢出合(5:40)～サナギ滝下(8:30)～滝上(10:40)～大滝下(12:10)～滝上(14:00)～天場(14:30)

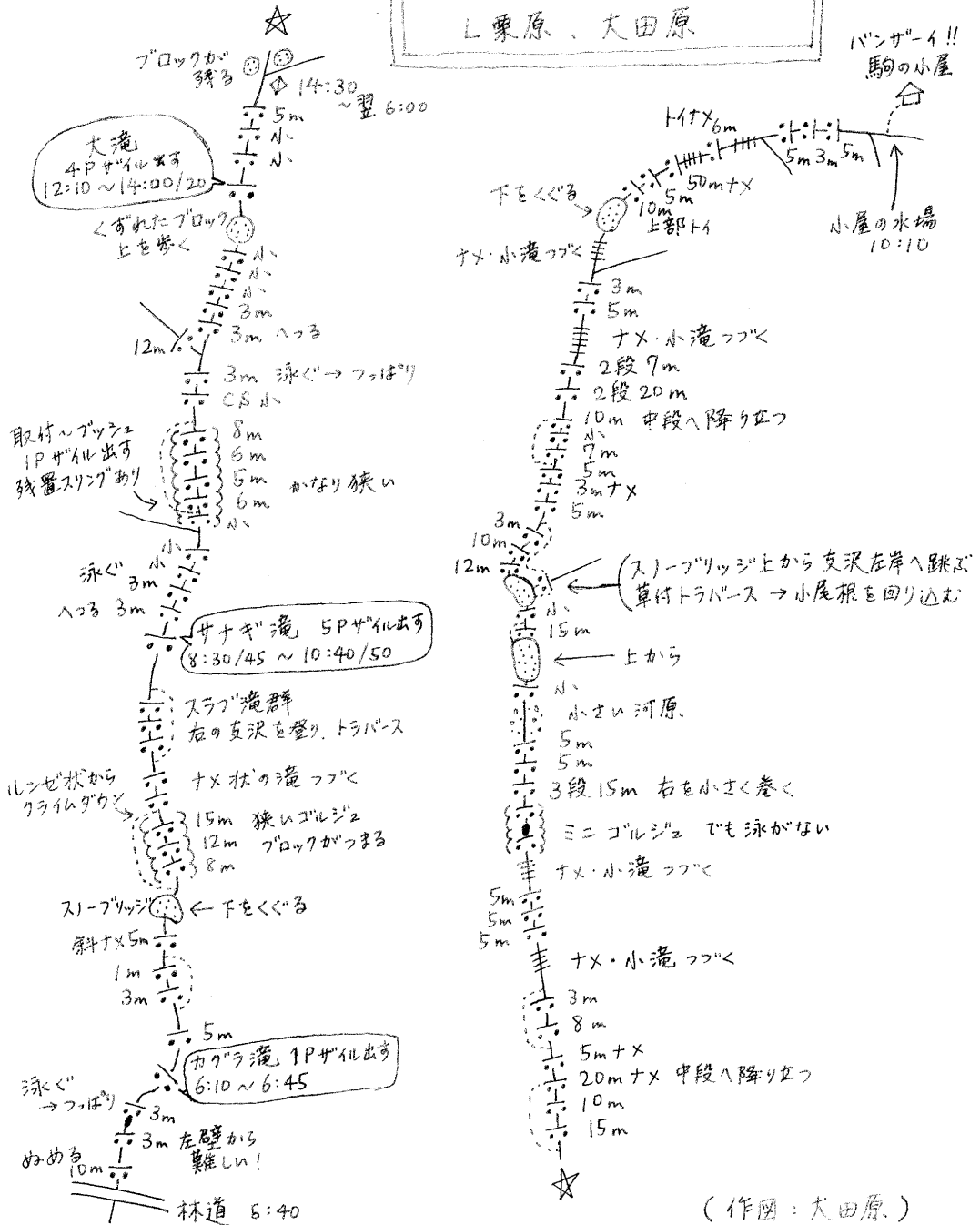
9/14 c1(6:00)～駒ノ小屋(10:15) (駒ヶ岳往復)

9/15 c2(7:15)～枝折峠(10:30)

【地図】八海山



越後 オツルミス沢
2008. 9. 13-15
L 栗原、大田原



(作図: 大田原)